

平成28年度 函館英語英文学会のご案内

総会・研究発表会を下記により開催いたします。

日時：平成28年6月11日（土）

総会 13時00分、研究発表 13時30分～

場所：北海道教育大学大会議室

共催：日本英文学会北海道支部

後援：北海道教育大学函館キャンパス

研究発表

1. 受容語彙サイズと自由英作文の流暢さの関係についての考察
木村 圭祐（北海道教育大学大学院）
2. 認知文法に基づいた無冠詞名詞と不定詞の分析
佐々木 昌太郎（高知工業高等専門学校）
3. メタファーの本質的側面に関する一考察
濱田 英人・斉藤 堯仁（札幌大学）
4. 開港場箱館の〈諸術調所〉事始め～蘭学者・武田斐三郎なればこそ～
井上 能孝（函館日米協会）

公開シンポジウム

小中高大連携を目指す英語教育実践と多言語・多文化共生教育への可能性

概要：小学校外国語活動の必修化から4年が過ぎ、小学校英語教育の更なる充実を目指した「早期化」と「教科化」が大きな話題となっている。また、一昨年度4月から高等学校の新学習指導要領が完全実施となり、「授業は英語で指導することを基本」とするなど、生徒の英語力の向上推進に

向けた体制が発足している。さらに、大学では、グローバル人材養成を目的とした英語教育の高度化と、地域との協働による社会貢献が求められている。このような教育改革は、2020年度の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、グローバル化に対応した教育が必要であるという国の考えのもとに進められている。一方で、言語学者や英語教育実践者からは、近年の英語教育の改革方針における根拠が希薄であり、更なる議論の積み重ねが必要であると慎重な意見もある。

このような現状を受け、函館英語英文学会では、昨年度に引き続き、小学校英語活動を始め、中等・高等英語教育の課題を振り返り、小中高大連携による英語科教育の発展を目指し、意見交換の場を設ける。また、英語教育者の視点から、学外機関との連携による地域貢献を目的としたプロジェクト型学習（アクティブラーニング）における課題から、多言語・多文化共生教育に向けた発展への可能性について考察する。本シンポジウムを通じて、教育研究の成果を共有し、これからの指導・学びの方向性について、会場全体で議論を深める場を創造することを目指す。

司会 菅原 健太（北海道教育大学函館校）、長澤 萌（北教大大学院2年生）、井上 竜児（北教大大学院1年生）

プログラム

【セッション1】「英語科教育－授業実践報告」

- 1.1 小学校英語活動から 発表者 伊藤 光（附属函館小学校）
- 1.2 中学校英語科授業から 発表者 福留 志織（附属函館中学校）
- 1.3 高等学校英語科授業から 発表者 櫻井 みちる（函館中部高等学校）

【セッション2】「プロジェクト型地域学習から多言語・多文化共生教育への可能性」

- 2.1 発表者 菅原健太（北海道教育大学函館校）
長山美咲、佐藤麻耶、藤田翔平（以上、北教大学国際地域学科 3年生）

3. 総括

一般市民・学生の参加を歓迎いたします。なお、参加は無料です。お問い合わせは、学会事務局（菅原研究室：0138-44-4313）まで。